

富士宮市文化財年報

第5号

平成26年度



2016

富士宮市教育委員会

富士宮市文化財年報

第5号

平成26年度

2016
富士宮市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成 26 年度に実施した富士宮市内における文化財保護事業の概要をまとめたものである。
- 2 文化財保護事業は、文化財保存・管理事業、埋蔵文化財事業、郷土資料館事業、歩く博物館事業、その他の事業に分類した。
- 3 本書の執筆・編集は、富士宮市教育委員会教育部文化課（埋蔵文化財センター）の各担当が行った。

4 平成 26 年度文化財関係組織

教 育 長	池谷 眞徳
教 育 次 長	矢崎 正文
文 化 課 長	小田 剛男
文化課参事兼埋蔵文化財センター所長	伊藤 昌光
学 術 文 化 財 係 長	渡井 英誉
同 主 査	長坂 光弘 （史跡整備工事担当）
（住宅営繕課主査兼任）	
同 学 芸 員	松本 将太 （文化財管理担当）
埋蔵文化財センター学芸員	保竹 貴幸 （埋蔵文化財担当）
同 学 芸 員	梶山 沙織 （歴史・民俗担当）
同 学 芸 員	永田 悠記 （埋蔵文化財担当）
同 嘱 託 員	馬飼野 行雄 （埋蔵文化財担当）
同 嘱 託 員	五味 奈々子 （埋蔵文化財担当）
同 嘱 託 員	細田 和代 （埋蔵文化財担当）
同 嘱 託 員	志村 和恵 （歴史・民俗担当）
社 会 教 育 指 導 員	渡井 一信
（郷土資料館長）	

《表紙写真：「村山大日堂」整備後》

目 次

富士宮市文化財年報第5号の刊行にあたって	1
I 平成26年度の文化財保護事業	
1 概要	4
2 文化財保護事業一年の歩み	5
II 文化財保存・管理事業	
1 文化財指定事業	6
(1) 猫沢のカシワ（市指定天然記念物）	
(2) 西山本門寺のシダレマキ（市指定天然記念物）	
(3) 寛妙寺のイヌマキ（市指定天然記念物）	
(4) 吉澤家住宅煉瓦蔵（国登録有形文化財）	
2 指定文化財整備事業	8
(1) 史跡「富士山」整備事業	
(2) 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備事業	
(3) 史跡「大鹿窪遺跡」整備事業	
3 指定文化財保存管理事業	12
(1) 富士宮市文化財保護補助金の交付	
(2) 指定文化財保護対策事業	
(3) 文化財防火デー	
4 未指定文化財保存管理事業	13
(1) 年中行事調査事業	
III 埋蔵文化財事業	
1 市内遺跡発掘調査事業（補助事業）	15
(1) 史跡富士山「村山大日堂」（現地調査）	
(2) 史跡富士山「山宮浅間神社」（資料整理・報告書作成）	
2 試掘・確認調査	16
(1) 寺内遺跡	
(2) 貴船町遺跡	
(3) 若ノ宮遺跡	
(4) 西ノ原遺跡	
3 富士宮市埋蔵文化財センター	19
(1) 施設概要	
(2) 事業	

IV	郷土資料館事業	
1	展示	21
	(1) 常設展示	
	(2) 企画展示	
	(3) その他の展示	
	(4) 展示会関連事業	
2	資料収集・保存管理	22
	(1) 資料収集	
	(2) 保存管理	
3	古文書等解読刊行事業	22
	(1) 旧北山村役場文書刊行事業	
V	歩く博物館事業	
1	探索会	23
	(1) 市主催探索会	
VI	その他の事業	
1	問合せ対応	23
2	小中学校総合学習への対応	23
3	講師派遣	23
	(1) 富士山まちづくり出前講座	
	(2) その他の講座への講師派遣	
資料 i	「富士宮市埋蔵文化財センター」パンフレット	25
資料 ii	「盆行事」展配布資料	27
資料 iii	「江戸時代の上野」展配布資料	31
資料 iv	「富士に息づく文学碑」展配布資料	35
資料 v	「長屋門『歴史の館』」パンフレット	39
資料 vi	第1回歩く博物館探索会「上井出・白糸地区」配布資料	41
資料 vii	第2回歩く博物館探索会「長貫・内房地区」配布資料	45
資料 viii	各委員会等委員名簿	49
資料 ix	富士宮市内指定文化財一覧	51

富士宮市文化財年報第5号の刊行にあたって

文化課長 小 田 剛 男

「富士宮市文化財年報」第5号の刊行にあたり、富士宮市における文化財保護行政の動きや富士宮市の文化財をめぐっての出来事について、平成26年度を振り返ってみます。

1 世界文化遺産富士山の構成資産整備

世界文化遺産富士山については、構成資産である文化財の本質的価値を保存し、次世代に継承するとともに、その活用を図るため、平成24年（2012）3月に策定した『富士宮市「史跡富士山」整備基本計画』、『名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備基本計画』に則り構成資産の整備を行ってまいりました。その整備のひとつとして平成25年度から行ってきた村山大日堂の保存修理工事が竣工しました。村山大日堂は構成資産である村山浅間神社・大日堂の中核をなすものであり、富士山信仰のひとつである修験道の間を今に伝える貴重な建造物です。日本伝統建築の技術により緻密な保存修理工事が行われ往時の姿を取り戻した村山大日堂は、厳かな存在感で訪れる人を楽しませてくれるようになりました。山宮浅間神社については、これまで行ってきた発掘調査と現況調査に基づき史跡整備の実施設計を行い、平成27年度から整備工事に着手する運びとなりました。実施設計には遙拝所を前景に富士山を望むことができる展望場の整備や階段の修復などを盛り込んでおり、史跡内を快適に見学できるような環境を整備してまいります。人穴富士講遺跡においては、史跡整備の基本設計を行う一方で、現在立ち入りを禁止している洞穴の公開を視野に入れ、適切な整備や工法、安全対策を検討するために洞穴岩盤強度や内部環境の調査を実施しました。今後、これら洞穴の調査や整備の検討を行う一方で、碑塔群や洞窟内の信仰の歴史についても調査を進め、それぞれ特徴ある遺構がもつ歴史を実感しながら安全に見学できる環境の整備を進めてまいります。そのほか、名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」では、平成25年度に引き続き、歩経路・サイン、展望場、公園のほか白糸自然公園への連絡通路などの整備が進められ、滝越しに富士山を望む景観や白糸自然公園側からのアプローチなど新たな魅力ある景観が整備されつつあります。

各構成資産の整備は、ユネスコの世界遺産センターに提出された推薦書の付属資料である包括的保存管理計画に記載された整備・公開・活用の促進を具現化するものとして、今後も取り組んでいくことになります。



写真1 村山大日堂竣工式



写真2 整備が進む白糸ノ滝

2 登録有形文化財「吉澤家住宅煉瓦蔵」の登録

市内宮町の吉澤家で代々保存されてきた「吉澤家住宅煉瓦蔵」が、平成 26 年 11 月 21 日に開催された国の文化審議会で登録有形文化財に登録すべき旨、審議議決され、文部科学大臣への答申がされました。その後、平成 27 年 3 月 26 日に国の文化財登録原簿に登録がされ、富士宮市で初めてとなる登録有形文化財が誕生しました。登録有形文化財は、「身近な文化財を活かして守る」という考えの下、地域に親しまれている建物や時代の特色をよく表わしたものや再び作ることができないものを文化財として守るため、届出と指導助言を基本とする緩やかな保護措置を講じる制度であり、平成 8 年 10 月 1 日に創設されました。「吉澤家住宅煉瓦蔵」は、明治期盛んに行われた煉瓦を用いた蔵造りを今に伝える貴重な建物として、登録を果たした訳であります。



写真 3 1階出入口



写真 4 2階板の間

3 文化財保護・調査等への継続的取組

富士山世界文化遺産の登録をはじめ毎年続く世界遺産登録に日本中が沸き、世界遺産関係の文化財に注目が集まる近年ですが、歴史豊かな富士宮市には他にも継続的に保護や調査に取り組むべき多くの文化財があります。平成 26 年度は、文化財保護事業として国指定特別天然記念物「狩宿の下馬ザクラ」と県指定天然記念物「猪之頭のミツバツツジ」の施肥・消毒を行い、文化財樹木の保護を図りました。埋蔵文化財発掘調査としては、村山大日堂保存修理工事に伴い建物基礎部分の構造を確認するための発掘調査を行ったほか、開発行為に伴う埋蔵文化財の確認のため、寺内遺跡（小泉）、貴船町遺跡（西町）、若ノ宮遺跡（小泉）、西ノ原遺跡（下条）における試掘・確認調査を行いました。また、歴史民俗分野では、旧北山村文書の解読に着手したほか、盆行事をはじめとした民俗行事の継続調査など各分野で重要な成果を上げた 1 年でありました。

これら各分野での調査研究の成果を発表して、市民の皆様が文化財に親しみ理解を深めていただくための取組として、平成 26 年度は、郷土資料館で「盆行事」展や「江戸時代の上野」展、「富士に息づく文学碑」展といった企画展示を実施したほか、上井出・白糸地区、長貫・内房地区での歩く博物館探索会を開催するなど、種々、文化財についての啓発に努めました。

4 文化課の再編と埋蔵文化財センターのオープン

平成 25 年度まで富士山世界遺産課（平成 25 年 9 月まで富士山文化課）内にあった世界遺産室が平成 26 年度から企画部に移り富士山世界遺産課として発足し、教育委員会内には文化財関係業務を行う課として文化課が再編されました。また、文化課には課内室として埋蔵文化財センターが設置されました。埋蔵文化財センターは長貫地内にあった旧芝川町保健福祉センターを改修し開設したもので、富士宮市で約半世紀にわたって行われてきた発掘調査により得られた膨大な数に上る埋蔵文化財等をはじめとした貴重な文化財資料を集約し、保存・管理、調査・研究、成果の展示までの業務を一元的に行う施設であります。平成 26 年 4 月 1 日に開設し、収蔵品の陳列等、展示室の準備を行った後、6 月 1 日には関係諸氏を招いてオープニングセレモニーを行い、展示室で埋蔵文化財資料の一般公開を開始しました。また、センター開設に伴う課内体制として、史跡富士山の整備をはじめとした文化財整備事業と指定文化財の保護管理業務を所管する学術文化財係を市役所本庁舎に置くと共に、文化財資料を集約した拠点施設となる埋蔵文化財センターでは、埋蔵文化財関係業務のほか未指定文化財の調査、郷土資料館事業等を所管するという体制で、新生文化課での文化財行政がスタートしました。



写真 5 埋蔵文化財センター（外観）



写真 6 展示室

5 むすびに

今を正念場とする世界文化遺産富士山の構成資産整備をはじめ、多種多様にわたる文化財の保護、調査、整備など、待ったなしの課題が山積する当市の文化財行政であります。今後とも、文化財の保護を図りながら、市内の歴史的、文化的資産の一層の掘り起しに努め、調査研究成果を市民の皆様へ還元することを使命として事業を実施してまいりたいと考えています。富士宮市の豊かな歴史を守り伝えていくため、これからも関係者のご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

I 平成 26 年度の文化財保護事業

1 概要

富士宮市における平成 26 年度の文化財保護関連事業の概要は、下記のとおりである。

〈文化財保存・管理事業〉

文化財保護審議会での審議・答申に基づき、旧芝川町指定文化財のうち、「猫沢のカシワ」、「西山本門寺のシダレマキ」、「寛妙寺のイヌマキ」を富士宮市指定天然記念物に指定した。また、「吉澤家住宅煉瓦蔵」が国の登録有形文化財となった。

史跡「富士山」、名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」、史跡「大鹿窪遺跡」の各文化財について、今年度も各委員会の指導を得て調査・整備等の事業を実施した。

その他、市内指定文化財の保存・管理事業への補助金の交付や未指定文化財の調査等、文化財の保存・管理事業を推進した。

〈埋蔵文化財事業〉

国・県の補助金を受けて、史跡富士山を構成する「村山大日堂」で史跡整備に伴う発掘調査を実施した。また、過年度に発掘調査した山宮浅間神社（史跡富士山）について、資料整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行した。

開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査を 4 件実施した。

富士宮市内の遺跡で出土した遺物を整理・保管し、展示・公開する施設として、「富士宮市埋蔵文化財センター」を平成 26 年 6 月 1 日に開館した。

埋蔵文化財センター事業として、石器作り教室開催や、「柚野の里まつり」において大鹿窪遺跡出土遺物の展示及び遺跡の解説を行った。

〈郷土資料館事業〉

郷土資料館において、常設展のほか、「盆行事」展、「江戸時代の上野」展、「富士に息づく文学碑」展の計 3 回の企画展を開催し、あわせて関連事業を開催した。

また、郷土資料館以外に、長屋門「歴史の館」にて展示を行った。

資料収集・保存管理事業として、民俗資料等の収集、収蔵品くん蒸を実施し、古文書等解説刊行事業として、旧北山村役場文書の解説作業を実施した。

〈歩く博物館事業〉

歩く博物館探索会を 2 回実施した。1 回目は上井出・白糸地区で実施し、「蘇我兄弟の隠れ岩と音止めの滝」「狩宿の下馬ザクラ」などを探索した。2 回目は長貫・内房地区で実施し、「富士宮市埋蔵文化財センター」の見学や、「本成寺」などを探索した。

〈その他の事業〉

市内の歴史・民俗等に関する問合せに対応したほか、小中学校の総合学習（富士山学習）への対応や、富士山まちづくり出前講座等の講師を務めた。

2 文化財保護事業一年の歩み

〈平成 26 年〉

- 4 月 30 日 「猫沢のカシワ」「西山本門寺のシダレマキ」「寛妙寺のイヌマキ」を富士宮市指定天然記念物に指定。
- 6 月 1 日 「富士宮市埋蔵文化財センター」開館。
- 7 月 1 日 寺内遺跡埋蔵文化財確認調査実施（7 月 4 日まで）。
- 7 月 12 日 郷土資料館「盆行事」展開催（11 月 9 日まで）。
- 7 月 24 日 盆行事「川供養」事前準備調査（内房尾崎）実施。
- 7 月 31 日 山宮民俗調査実施。
- 7 月 31 日 第 1 回史跡富士山整備委員会開催。
- 8 月 4 日 史跡富士山「村山大日堂」発掘調査実施（9 月 12 日まで）。
- 8 月 15 日 盆行事「川供養（上長貫地区）」調査実施（8 月 16 日まで）。
- 9 月 24 日 第 1 回歩く博物館探索会（上井出・白糸地区）開催。
- 10 月 25 日 石器作り教室（埋蔵文化財センター）実施。
- 11 月 1 日 西富士図書館「郷土を知る講座・『江戸時代の上野の暮らし』講座」実施。（郷土資料館「江戸時代の上野」展関連事業。）
- 11 月 7 日 郷土資料館展示物等くん蒸事業実施（11 月 9 日まで）。
- 11 月 21 日 文化審議会が「吉澤家住宅煉瓦蔵」を文化財登録原簿に登録するよう文部科学大臣に答申。
- 11 月 22 日 郷土資料館「江戸時代の上野」展開催（平成 27 年 2 月 28 日まで）。
- 11 月 27 日 貴船町遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 11 月 28 日 第 2 回史跡富士山整備委員会開催。
- 11 月 29 日 「柚野の里まつり」で大鹿窪遺跡の出土遺物の展示と解説を実施。
- 12 月 6 日 第 2 回歩く博物館探索会（長貫・内房地区）開催（埋蔵文化財センター見学）。

〈平成 27 年〉

- 1 月 11 日 どんど焼き・小正月行事調査（静岡市清水区・市内）実施。
- 1 月 26 日 文化財防火デー。
- 2 月 16 日 若ノ宮遺跡埋蔵文化財確認調査実施（2 月 17 日まで）。
- 3 月 14 日 内野「火伏念仏」調査実施。
- 3 月 16 日 第 3 回史跡富士山整備委員会開催。
- 3 月 17 日 西ノ原遺跡埋蔵文化財確認調査実施（3 月 18 日まで）。
- 3 月 20 日 史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会開催。
- 3 月 20 日 発掘調査報告書『山宮浅間神社遺跡』刊行。
- 3 月 20 日 史跡整備報告書『「村山大日堂」保存修理工事報告書』刊行。
- 3 月 21 日 郷土資料館「富士に息づく文学碑」展開催（7 月 12 日まで）。
- 3 月 20 日 指定文化財保護対策事業完了（狩宿の下馬ザクラ、猪之頭のミツバツツジ）。
- 3 月 24 日 八管神社碑伝調査（神奈川県愛甲郡愛川町）実施。
- 3 月 26 日 「吉澤家住宅煉瓦蔵」が文化財登録原簿に登録（市内初の登録有形文化財）。
- 3 月 31 日 史跡富士山「村山大日堂」保存修理工事竣工式。

Ⅱ 文化財保存・管理事業

1 文化財指定事業

平成 26 年 3 月 17 日付けの文化財保護審議会の答申に基づき、平成 26 年 4 月 30 日付けで天然記念物 3 件（「猫沢のカシワ」、「西山本門寺のシダレマキ」、「寛妙寺のイヌマキ」）を富士宮市指定天然記念物に指定した。また、平成 26 年 11 月 21 日付けの文化審議会の答申を受け、文部科学大臣により平成 27 年 3 月 26 日付けで「吉澤家住宅煉瓦蔵」が国の文化財登録原簿に登録され、市内初の登録有形文化財となった。

（１） 猫沢のカシワ

種 別 市指定・天然記念物
指 定 日 平成 26 年 4 月 30 日
所 有 者 篠原幸夫
所 在 地 富士宮市猫沢98番地の2
説 明 根周り 3.85m、目通り 1.9m、
樹高 6.7m、枝張り東西 2.8m・
南北 20.2m。



写真 7 猫沢のカシワ

樹勢旺盛。直立する主幹は目通り 1.9m、樹高 6.7mある。南北に伸びた枝は、鳥が翼を広げたように見える。庭木として所有者の篠原家によって、長年にわたって大事に育てられてきたものである。

カシワは、富士山麓の火山噴出物土壌の指標種である。このカシワは、戦国時代に甲斐武田氏の駿河進出に伴い、命によりこの地に移住した篠原家の歴史を物語る伝承をもつ。市内の精進川のカシワとともに市内最大級のカシワで、御殿場市にある県指定天然記念物「二枚橋のカシワ」に匹敵する大きさであり、大変貴重なものである。

そ の 他 旧芝川町指定文化財（昭和 47 年 9 月 1 日指定。平成 22 年 3 月 23 日解除）

（２） 西山本門寺のシダレマキ

種 別 市指定・天然記念物
指 定 日 平成 26 年 4 月 30 日
所 有 者 西山本門寺
所 在 地 富士宮市西山 671 番地
説 明 根周り 5.8m、目通り 3.15m、樹高 18m、枝張り東西 14.7m・南北 14.1m、
樹齢 350 年（伝）。

主軸は幹高 3.5mのところでは二本に分岐し、左側の主軸は 6 mのところでは平成 19 年 2 月に枯れ枝の除去を実施したため欠失しているが、4 本の側枝が伸張り、右側の主軸と共に 18mに達している。なお、このイヌマキの枝垂れた枝は真下に伸び、長いもので 7 m以上に及ぶ。地上から樹高の 3 分の 2 付近からの枝

がほとんど枝垂れているため、滝のような景観を呈する。

規模が大きいことと、枝が枝垂れていることを特徴としている。これほど枝垂れた枝の規模が大きいものは珍しく、大変貴重なものである。

「西山本門寺のシダレマキ」と命名できるものである。

境内にある静岡県指定天然記念物のヒイラギとともに、西山本門寺の歴史を物語る巨樹である。

そ の 他 旧芝川町指定文化財（昭和 56 年 12 月 18 日指定。平成 22 年 3 月 23 日解除）



写真 8 西山本門寺のシダレマキ

（３） 寛妙寺のイヌマキ

種 別 市指定・天然記念物

指 定 日 平成 26 年 4 月 30 日

管 理 者 橋上町内会

所 在 地 富士宮市内房 2642 番地

説 明 根周り 4.35m、目通り 3.87m、樹高 17.4m、枝張り東西 13.4m・南北 15.9m、樹齢 300 年（伝）。

樹勢旺盛。雌株。古木であるが、「西山本門寺のシダレマキ」のような枝垂れた枝は見られない。富士市指定天然記念物の「医王寺のマキ」や「常盤家のマキ」とならび、富士地区最大級のイヌマキである。

イヌマキのある寛妙寺は、市内の内房尾崎の日蓮宗本成寺の末寺（隠居寺）として建立されたと伝えられ、橋上集落の中央にあり、境内には明和 7 年（1770）建立の題目塔などが残されている。現在は廃寺となっている。

「西山本門寺のシダレマキ」とならび市内最大級のイヌマキで、大変貴重なものである。

寛妙寺を中心とした地域の歴史と共に成長してきたが、寛妙寺廃寺後も地域住民の手厚い保護を受け今日に至っている。

そ の 他 旧芝川町指定文化財（昭和 56 年 12 月 18 日指定。平成 22 年 3 月 23 日解除）



写真 9 寛妙寺のイヌマキ

（４） 吉澤家住宅煉瓦蔵

種 別 国・登録有形文化財

登 録 日 平成 27 年 3 月 26 日

所 有 者 吉澤利一

所在地 富士宮市宮町 947 番地の 1

説明 土蔵造二階建、瓦葺、建築面積 49 m²、明治 24 年（1891）建築。

明治期に当地で盛んに建てられた煉瓦蔵の希少な遺例である。

北側下屋や主体部の内側に煉瓦を設けている、木骨煉瓦工法とみられる。

煉瓦蔵の特徴である外観の煉瓦積みは、現在、外部が塗り壁となっているため確認できないが、下屋内部の柱の外側に積まれた煉瓦が見えるため、壁厚からして煉瓦を積んであると思われる。

その他 富士山本宮浅間大社に面する、東西の道（大社通り・宮町通り）から数分西へ行った所（富士宮市宮町）に吉澤家がある。通りからは文具店があるだけで見えないが、店内を入り奥へ進むと、中庭に煉瓦蔵が見えてくる。

現在の煉瓦蔵は、石敷きの上に木造 2 階建て・瓦葺き一部下屋付で床面積約 82 m²の建物である。古文書によると、明治 24 年に新たに現存する煉瓦蔵へと建て替えられている。この時の工事の様子は、吉澤家当主が自ら監督となり記した『煉瓦蔵建築工事明細記』に残されている。内容は、石・粘土の買付、建物の位置、水盛り、石敷き、煉瓦の搬入、上棟、屋根葺き、煉瓦工など、日付と天候を含め詳細に記載され、その建設工事の流れがわかるようになっている。

明治期には富士宮市では煉瓦を用いて蔵を造る工法が頻繁に行われており、この煉瓦蔵は市民の間に展開した文明開化の一つの証である。



写真 10 吉澤家住宅煉瓦蔵（外観）



写真 11 吉澤家住宅煉瓦蔵（内部）

2 指定文化財整備事業

（1） 史跡「富士山」整備事業

史跡「富士山」（平成 23 年 2 月 7 日指定）について、史跡富士山整備委員会の指導を受けながら、史跡整備事業を実施した。また、便益施設及び史跡内の管理（草刈り等）については地元の地域団体等に委託して実施した。

ア 史跡富士山整備委員会の開催

第 1 回 開催日：平成 26 年 7 月 31 日（木）

内 容：平成 26 年度の調査・整備事業計画の説明。平成 25 年度の調査・整備事業の報告。（人穴富士講遺跡の整備、山宮浅間神社の調査と整備、村山浅間神社の整備等）

第 2 回 開催日：平成 26 年 11 月 28 日（金）

内 容：平成 26 年度で実施中の調査・整備事業の説明（村山浅間神社の整備、人穴富士講遺跡の調査と整備等）。

第 3 回 開催日：平成 27 年 3 月 16 日（月）

内 容：平成 26 年度の調査・整備事業の報告（村山浅間神社の整備、山宮浅間神社の調査と整備、人穴富士講遺跡の調査、サイン整備等）。

平成 27 年度の調査・整備事業計画の説明（山宮浅間神社の整備、富士山本宮浅間大社境内地内神田川ふれあい広場改修工事等）。

史跡富士山整備委員会委員の任期満了・再任

平成 26 年 8 月 31 日に委員の任期が満了したが、委員全員が再任された（任期：平成 26 年 9 月 1 日から平成 28 年 8 月 31 日まで）。

イ 各構成資産の調査・整備

（ア） 村山浅間神社・大日堂整備事業

建立当時（江戸時代末期）の状態に修復することを目的として、「村山大日堂」富士山興法寺大日堂）の保存修理工事をおこなった。工事と並行して、基礎部分の発掘調査や解体した部材の調査等を実施した。

保存修理工事は文化財建造物の保存修理・修復方法に精通した団体の監理の下で行われ、工事終了後、資料調査や保存修理工事の経緯等を整理した『史跡富士山「村山大日堂」保存修理工事報告書』を刊行した。



写真 12 村山大日堂（内部）



写真 13 「村山大日堂」保存修理工事報告書

（イ） 八菅神社碑伝調査（村山大日堂碑伝関連調査）

日 時：平成 27 年 3 月 24 日（火）

場 所：八菅神社（神奈川県愛甲郡愛川町）

調査者：文化課学芸員 3 名

内 容：八菅山は、明治初年の神仏分離・修験道禁止により廃絶する以前は関東有

数の修験道場であり、近世には村山の興法寺と同じく聖護院末寺であった。また、同所には中世以降の碑伝が多数伝来しており、中には村山の碑伝木と類似した大型碑伝がある。村山の碑伝木は聖護院宮雄仁親王が天保12年（1841）に村山を来訪した際に作成したものである。この旅の途中、親王は八菅山にも滞在している。八菅神社に伝来する碑伝（写真右側）には、村山の碑伝木と同様の刻銘が確認できた。



写真 14 八菅神社の大型碑伝

（ウ） 山宮民俗調査

日 時：平成 26 年 7 月 31 日（木）

場 所：史跡富士山「山宮浅間神社」案内所

調査者：文化課学芸員 2 名

内 容：山宮浅間神社氏子の方から神社の歴史、山宮地域の民俗について話を伺った。

（エ） 山宮浅間神社整備事業

富士山遥拝のための展望場整備や参道の階段改修等、史跡全体の整備実施設計を作成した。

整備事業の事前調査として、階段を含む参道や玉垣の測量調査を実施した。



図 15 山宮浅間神社（遥拝所）

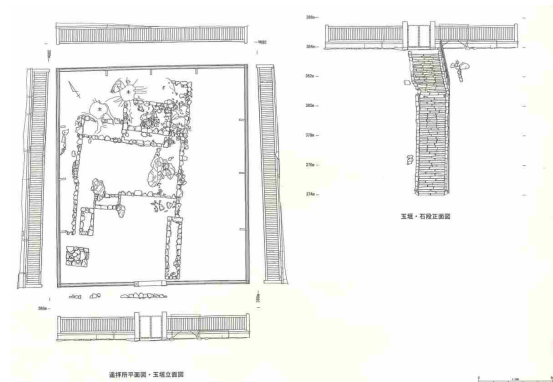


図 1 玉垣・階段（参道）実測図

（オ） 人穴富士講遺跡

碑塔群の現況調査のために、測量調査を行った。

洞穴内の石敷遺構の測量調査、浸透水や堆積物の調査、洞穴の安全性評価のための弾性波探査等を行った。

指定地南の参道東側の土地を、駐車場用地として取得した。



図 16 人穴（洞穴内部）

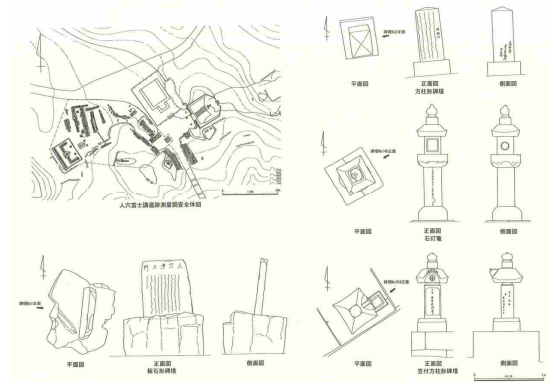


図 2 碑塔群実測図

（2） 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備事業（企画部富士山世界遺産課主管事業）

世界遺産富士山の構成資産となった名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」の整備を整備基本計画に基づいて実施した。整備に際しては、文化庁の指導のもと、学識経験者から成る整備委員会で整備内容の協議を重ねて進めた。

富士山と滝を同時に望める西側展望場と歩経路の整備、それに伴うサイン工事及び滝の南側から西側の白糸自然公園に至る連絡通路の工事を実施した。西側展望場は平成 27 年 5 月に完成した。

また、便益施設及び史跡内の管理（草刈り等）については、地元の業者に委託して実施した。



写真 17 西側展望場



写真 18 歩経路

（3） 史跡「大鹿窪遺跡」整備事業

史跡「大鹿窪遺跡」（平成 20 年 3 月 28 日指定）について、適正な保全・公開・活用を検討するため、史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会を開催した。また、史跡管理のため、指定地（約 6,600 m²）の草刈を地元区に委託して実施した。

ア 史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会の開催

開催日：平成 27 年 3 月 20 日（金）

内 容：今後の整備方針の説明（第 5 次富士宮市総合計画に採用）。整備のための事前

の発掘調査事業計画等について説明。

イ 史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会の委員の1名の委員から辞職願いが提出されたため、新たに小林謙一氏（中央大学文学部教授・考古学専門）を選任した。（任期：は事業が終了するまで。）

3 指定文化財保存管理事業

（1） 富士宮市文化財保護補助金の交付

「富士宮市文化財保護補助金交付要綱」に基づき、以下の通り市内指定文化財の管理・保存・活用事業に対して補助金の交付を行った。

ア 富士山本宮浅間神社本殿指定文化財管理事業

補助事業者：富士山本宮浅間大社

事業内容：

国指定重要文化財「富士山本宮浅間神社本殿」の自動火災報知設備・消火設備（加圧式動力消防ポンプ）・避雷針の保守点検等の文化財管理事業を実施した。

イ 富士山本宮浅間大社社殿指定文化財管理事業

補助事業者：富士山本宮浅間大社

事業内容：

県指定有形文化財「富士山本宮浅間大社社殿」の自動火災報知設備・消火設備（加圧式動力消防ポンプ）・避雷針の保守点検等の文化財管理事業を実施した。

ウ 富士山本宮浅間大社社殿建造物保存修理等事業

補助事業者：富士山本宮浅間大社

事業内容：

県指定有形文化財「富士山本宮浅間大社社殿」の拝殿向拝の柱の塗装を行った。

（2） 指定文化財保護対策事業

国指定特別天然記念物「狩宿の下馬ザクラ」・静岡県指定天然記念物「猪之頭のミツバツツジ」の樹勢保持のため、平成27年2月～3月に施肥・消毒を実施した。

（3） 文化財防火デー

文化財防火デーは、国民全体の重要な宝である文化財を火災や震災などの災害から守るために昭和30年に定められたもので、毎年1月26日を中心に全国で文化財防火運動が実施されている。

市内では、浅間大社と大石寺で防火訓練が実施された。また、消防本部による消防設備の点検や、東京電力（株）富士支社の協力による建造物の漏電検査を行った。



写真 19 防火訓練（大石寺）



写真 20 消防設備点検（妙蓮寺）

4 未指定文化財保存管理事業

（１） 年中行事調査事業

市内で行われる種々の民俗行事について調査を行った。

表 1 平成 26 年度調査一覧

	名 称	月 日	場 所	備 考
1	盆行事（川供養）	7 月 27 日	本成寺境内	事前準備
2	盆行事（川供養）	8 月 15 日～16 日	上長貫公民館、 富士川及び芝川流域	
3	どんど焼き・小正月行事	1 月 11 日	静岡市清水区、市内各所	
4	火伏念仏	3 月 14 日	内野	

ア 盆行事（川供養）調査

日 時：平成 26 年 7 月 24 日（木）

場 所：本成寺境内（富士宮市内房）

富士川河原

調査者：文化課学芸員 4 名

内 容：富士川流域では特徴的な盆行事が行われている。内房尾崎地区では毎年 8 月 16 日にカワガンジイと投げ松明が行われる。本年度は 7 月 27 日に準備作業が行われた。

カワガンジイは、神輿のように担いで集落を巡った後、火をつけて富士川に流すものである。カワガンジイ作りは本成寺境内で行われた。青竹を芯にして麦わらを編みあげて土台を作り、中央に竹を挿し、松明を取り付ける。完成後は川供養当日（8 月 16 日）まで本



写真 21 カワガンジイ製作風景

成寺境内に保管される。また、カワガンジイ製作と並行して投げ松明の製作も行われる。

イ 盆行事（川供養）調査

日 時：平成 26 年 8 月 15 日（金）

場 所：長貫上公民館（富士宮市長貫）
富士川河原

調査者：文化課学芸員 4 名

内 容：富士川流域では特徴的な盆行事が行われており、上長貫では 8 月 15 日に投げ松明が行われる。当日午前中に行われる準備作業を調査した。

投げ松明の柱はハチノスと呼ばれ、3 つ作成する。材料は集落内で調達する。作り方は次の通りである。孟宗竹の端をナタで八等分に割り、タガ 2 つをはめてアサガオ型に開いて固定し、骨組みとする。骨組みの外周に麦わらの束を編みつけ、内部に麦わらや爆竹を詰める。完成したハチノスは河原に立てられ、当日夕暮れに行われる投げ松明の開始を待つ。なお、投げ込むタイマツ（縄のついた薪の束）は各自が持参する。



写真 22 投げ松明製作風景

ウ どんど焼き・小正月行事調査

日 時：平成 27 年 1 月 11 日（日）

場 所：静岡市清水区・市内

調査者：文化課学芸員 2 名

内 容：前年度は富士宮市東方の神奈川県下のどんど焼き・道祖神信仰を調査したので、今年度は西方の静岡市清水区を調査対象とした。

蒲原西町は、15 日の日の出にどんど焼きを行う（現在は日曜日）。砂浜に飾りをつけたオンベ竹を立ててその周囲で正月飾りを焼き、竹が倒れた方向で豊作・豊漁を占う。また、三又か五又のカシの木に団子を挿して焼く。由比では、14 日朝に砂浜にお面などで飾りつけた竹を立てて正月飾りを焼く（現在は日曜日に河川敷で実施）。また、細竹に角餅を挟んで焼く。宍原では、14 日朝に行う。オンベ竹は立てない。集落には道祖神があるが、どんど焼きとの関係性はない。

富士宮市内でも、オンベを立てたり、三又のカシの木に団子を挿して焼く（瓜島のみ細竹で角餅を焼く）。また、富士川以西には道祖神がなくどんど焼きと道祖神の関係性がない。道祖神信仰のあり方・来歴を考えるうえで興味深い。



写真 23 蒲原のどんど焼き

Ⅲ 埋蔵文化財事業

1 市内遺跡発掘調査事業（補助事業）

国・県の補助金を受け、埋蔵文化財の発掘調査（現地調査・資料整理）を以下のとおり実施した。

（1） 史跡富士山「村山大日堂」（現地調査）

所在地：富士宮市村山 1152-2

期 間：平成 26 年 8 月 4 日から

平成 26 年 9 月 12 日まで

面 積：約 220 m²

目 的：史跡富士山「村山大日堂」保存修理
工事に伴う史跡内容確認調査

《遺跡の概要》

村山浅間神社遺跡は村山浅間神社の境内地を中心とした遺跡で、修験の集落として発展した村山集落を範囲に含んでいる。村山富士修験における富士登山の拠点となった場所で、村山口登山道の起点となっている。これまでの調査で縄文土器や平安時代の住居跡も確認されている。

《主な遺構・遺物》

古代・中世 遺物：銭貨

近世 遺構：礎石

遺物：土器・陶磁器・銭貨・金属製品

《調査の成果》

基壇部は、大日堂北側斜面を削平して平坦面を作り出し、その上に盛土で築成し、礎石を設置していた。解体前には存在が確認されていなかった向拝の礎石及び見切石列が検出された。出土遺物等から、現在の建物の基礎は中世にまでは遡らず、中世の築造と考えられる。



図 3 位置図（S=1/10000）



写真 24 向拝礎石・見切石列検出状況



写真 25 出土遺物

(2) 史跡富士山「山宮浅間神社」(資料整理・報告書作成)

所在地：富士宮市山宮 740-1 ほか

期 間：平成 26 年 4 月 15 日から平成 27 年 3 月 20 日まで

目 的：史跡整備のための事前調査に伴う記録保存

《遺跡の概要》

山宮浅間神社は、富士山本宮浅間大社の故地とされ、神体である富士山を直接拝む遥拝所が富士山の溶岩流末端の高台にある。遥拝所には石列が配置され、本殿等の建物がなく直接神体を遥拝する古代の祭祀形態が残されているとされている。遺物は平安時代末期から近世に至るまでの、祭事に関わるものが出土している。

《調査の成果》

遥拝所の一部は過去何回かにわたって造成がなされ、石列が設置されたことが判明した。遺物は中世のかわらけが中心で、中世には祭祀場として整備されていたことが判明した。遥拝所を囲む玉垣は、一部が石列の上に構築されていた。また、遥拝所を囲み聖域として区画したと思われる石塁の外側にも、遺構が存在することが判明した。



写真 26 発掘調査報告書

2 試掘・確認調査

開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査を以下のとおり行った。

表 2 埋蔵文化財の試掘・確認調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	時代	主な遺構	主な遺物
1	寺内遺跡	小泉 1727-1	H26. 7. 1 - 4	100 m ²	縄文・古墳	なし	なし
2	貴船町遺跡	宮町 629-1 ほか	H26. 11. 27	15 m ²	弥生～奈良	なし	なし
3	若ノ宮遺跡	若の宮町 356 ほか	H27. 2. 16 - 17	40 m ²	古墳・中世	なし	なし
4	西ノ原遺跡	下条 1075 ほか	H27. 3. 17 - 18	90 m ²	縄文・古墳	なし	なし

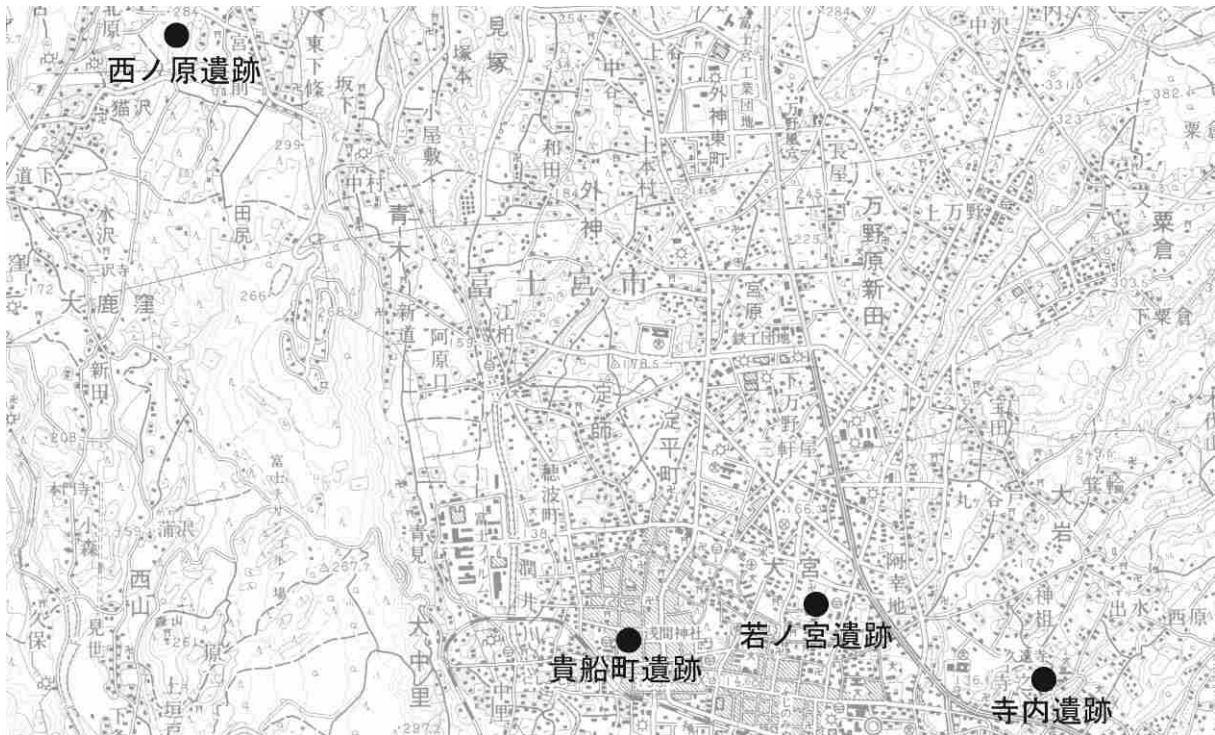


図4 確認調査実施箇所位置図 (S=1/50000)

(1) 寺内遺跡

《遺跡の概要》 北から南へと傾斜する富士山西南麓末端部の丘陵台地上に位置し、本調査地はその肩部の傾斜地にあたる。

《調査の概要》 宅地造成工事に伴う事前の確認調査で、対象地にトレンチ 10 本を設定して調査を行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 表土より下位の層は、近年の田んぼのための耕作土によって攪乱されており、旧地形も谷地形であり、人の居住に適さない埋没谷であったと考えられる。遺構・遺物とも確認できなかった。



写真 27 トレンチ 1 完掘状況



写真 28 トレンチ 8 完掘状況

(2) 貴船町遺跡

《遺跡の概要》 以前に、本調査地西側の貴船小学校での調査で弥生～奈良時代の土師器が出土した。

《調査の概要》 集合住宅新築工事に伴う事前の確認調査で、対象地にトレンチ2本を設定して調査を行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 遺構・遺物ともに確認できなかった。



写真 29 トレンチ 1 完掘状況



写真 30 トレンチ 2 完掘状況

(3) 若ノ宮遺跡

《遺跡の概要》 富士山南西麓の緩斜面に位置し、南側が谷地形をなしている。調査地は遺跡中央東側に位置する。

《調査の概要》 宅地造成工事に伴う事前の確認調査で、対象地にトレンチ4本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 縄文時代に相当する褐色土層の上に砂層と礫層が形成されていたことが確認された。これらは富士山からの土石流による堆積と考えられる。当該地は土石流の流路であったと推測され、人の居住に適さない地であったと考えられる。



写真 31 トレンチ 1 完掘状況



写真 32 トレンチ 2 完掘状況

(4) 西ノ原遺跡

《遺跡の概要》 上野台地の緩斜面南端の小丘上に位置している。調査地は、現地踏査で古墳時代の土師器が採集された地点の南隣、遺跡中央部に位置する。

《調査の概要》 資材置場建設に伴う事前の確認調査で、対象地にトレンチ6本を設定して調査を行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 富士宮地域の標準的な土層堆積が確認でき、大沢ラピリ層上面で遺構・遺物、さらにサブトレを入れ栗色土層を掘り抜き遺構・遺物の有無を確認したが、遺構・遺物は見られなかった。栗色土層の堆積は薄く、トレンチ4では新富士溶岩流も見られたことから、調査地は人の居住に適さなかったと考えられる。



写真 33 トレンチ 1 完掘状況



写真 34 トレンチ 4 完掘状況

3 富士宮市埋蔵文化財センター

(1) 施設概要（巻末資料 i）

富士宮市埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査・整理・保管・公開を目的として、平成 26 年 6 月に開館した。センターには発掘調査で出土した遺物が収蔵保管され、整理作業が行われている。また、展示室では富士宮市内の遺跡・史跡の展示をしている。

所在地：富士宮市長貫 747-1

電話番号：0544-65-5151

FAX番号：0544-65-2933

敷地面積：8,776.85 m²

建物面積：本棟延床面積 1,372.85 m²

（展示室 86 m²、事務室 96 m²、

作業室 64 m²、講座室 60 m²、

書庫 43 m²、収蔵庫 440 m²）

倉庫延床面積 178 m²

駐車場：50 台



写真 35 富士宮市埋蔵文化財センター

ア 展示室

開館日：平日（祝日・年末年始休館、土・日曜日は団体のみ（要事前連絡））

開館時間：9:00～17:00

見学料：無料

展示内容：旧石器時代から中世・近世の各時代出土資料、市内主要遺跡の紹介、史跡富士山関連遺跡発掘調査出土資料



写真 36 展示室

イ 収蔵施設

本棟倉庫：発掘調査で出土した資料、コンテナ約 1,000 箱

別棟倉庫：民俗資料約 5,000 点

書庫：図書資料約 1,000 冊

(2) 事業

ア 石器作り教室

日時：平成 26 年 10 月 25 日（土）

場所：埋蔵文化財センター

講師：静岡野尻湖友の会

内容：展示室で実物資料（石器）を見学したのち、加工しやすい石材を用いて石器製作を体験し、石器への学びを深めた。

参加者：20 名



写真 37 石器作り教室の様子

イ 大鹿窪遺跡出土遺物の展示

「柚野の里まつり」において、大鹿窪遺跡出土遺物の展示・解説を行った。

日時：平成 26 年 11 月 29 日（土）

場所：富士山 縄文の里 大鹿館

内容：大鹿窪遺跡出土遺物（土器、石器）の展示と解説

ウ 見学会

埋蔵文化財センター見学と周辺の文化財を訪ねる探索会を開催した（歩く博物館探索会として実施）。

日時：平成 26 年 12 月 6 日（土）

場所：埋蔵文化財センター、長貫・内房地区

講師：文化課学芸員

参加者：30 名



写真 38 見学会の様子

IV 郷土資料館事業

1 展示

(1) 常設展示

富士山の信仰、富士山麓の動物・自然などの常設展示を行った。

(2) 企画展示

ア 「盆行事」展（巻末資料 ii）

期 間：平成 26 年 7 月 12 日（土）から平成 26 年 11 月 9 日（日）まで

内 容：富士川流域の盆行事の紹介、投げ松明のハチノスなど。

イ 「江戸時代の上野」展（巻末資料 iii）

期 間：平成 26 年 11 月 22 日（土）から平成 27 年 2 月 28 日（土）まで

内 容：旧上野村役場文書の紹介、田んぼ仕事の民具など。

ウ 「富士に息づく文学碑」展（巻末資料 iv）

期 間：平成 27 年 3 月 21 日（土）から平成 27 年 7 月 12 日（日）まで

内 容：富士宮市ゆかりの文学者の紹介、俳句奉納額など。

(3) その他の展示

ア 長屋門「歴史の館」（巻末資料 v）

長屋門「歴史の館」では、「絹本著色富士曼荼羅図」の複製の展示や、富士宮市の歴史年表、世界遺産構成資産の紹介パネルなどを展示している。また、平成 26 年度には新たに施設パンフレットを作成し、配布した。

場 所：富士宮市大宮町 6-22

開館時間：午前 9 時～午後 4 時 30 分

休 館 日：毎週火・水・木曜日、年末年始

入 館 料：無料

(4) 展示会関連事業

ア 西富士図書館「郷土を知る講座」「江戸時代の上野の暮らし」

実施日：平成 26 年 11 月 1 日（土）午前 9 時から 12 時まで

場 所：西富士図書館

講 師：文化課学芸員

内 容：「江戸時代の上野」展（期間：平成 26 年 11 月 22 日～平成 27 年 2 月 28 日）の関連事業として、展示内容を紹介・解説する講座を実施した。（西富士図書館「郷土を知る講座」として実施）

参加者：30 人

2 資料収集・保存管理

(1) 資料収集

表3 郷土資料収集品一覧

受入月	内容	収集方法
平成26年4月	民俗資料1点	個人寄贈
7月	歴史資料1点	個人寄贈
7月	戦争関連資料 11点	個人寄贈
8月	民俗資料4点	現地採集
10月	民俗資料2点	個人寄贈
10月	珠算学校関係 資料一式	個人寄贈



写真39 平成26年度収集品(高札)

(2) 保存管理

ア 収蔵品くん蒸事業

日時：平成26年11月7日(金)から11月9日(日)まで

場所：被覆くん蒸（埋蔵文化財センター収蔵庫内）（富士宮市長貫747-1） 約20 m³
 埋蔵文化財センター収蔵庫 約600 m³
 埋蔵文化財センター別棟 約550 m³
 柚野収蔵庫（富士宮市下柚野361-1） 約300 m³

内容：埋蔵文化財センター収蔵庫内で、被覆くん蒸法により、薬品名エキヒュームSによる殺虫・殺カビくん蒸を実施した。あわせて、埋蔵文化財センター収蔵庫・同別棟・柚野収蔵庫では、薬品名ブンガノンによる殺虫処理を実施した。（施工業者：東海埠頭株式会社）

3 古文書等解読刊行事業

(1) 旧北山村役場文書刊行事業

旧北山村役場文書（富士宮市教育委員会蔵）は、旧北山村の地方文書や北山用水関係資料などが含まれ、当時の富士宮市北部地域の生活を知る上で貴重な資料群である。今年度は解読作業を行った。